

ふるさと卒医師等の中山間地域への配置調整の基本的な考え方

広島県健康福祉局医療介護人材課
 広島大学地域医療システム学講座
 広島県地域医療支援センター

1 県民の期待に応え、キャリア形成にも配慮した配置の実現

ふるさと卒(地域卒)医師等の配置が始まり、中山間地域の医師確保改善への期待が高まっている。一方、本県ではまだ例はないものの他県では地域卒医師の奨学金返還の事例も出ている。

このため、中山間地域の医師確保のために、医師のキャリアなどにも配慮しつつ配置調整を進め、県民の期待に応える成果の実現をめざす必要がある。

2 中山間地域における配置ガイドライン

(1) 可能な限り純増配置を目指す。

○ 中山間地域の指定病院からの要望については、地域の医師確保のための医学部入学定員増という、ふるさと卒制度の趣旨・目的から、純増配置が望まれる。

(2) 中山間地域勤務の4年間については、総合医(総合診療医・一般内科医・一般外科医)としての配置を原則とするが、中山間地域の指定病院からの要望がある場合には専門科医として配置する。

ー専攻医の専門科医としての配置については、指導体制等を考慮するとともに、例外的対応の事情が理解されるよう配慮する。また、専攻医を総合医として配置する場合には、指導体制がない中で専門科業務が行われないよう要請する。

(※ 専攻医は卒後3～5年、専門医は6年～)

(3) 中山間地域の指定病院を便宜上「中堅病院(4)、中小病院(9)」に分けて、「中小病院」には原則2年、少なくとも1年以上は常勤として全員が勤務する。

(中山間地域の指定病院区分)

中堅病院	三次中央(69/70.6, 350), 庄原日赤(34/37.4, 301), J A吉田(30/32.9, 340), みつぎ(25/30.5, 240)	常勤換算医師数計 171.4人
中小病院	府中市民(10/14.2, 150), 世羅中央(10/13.2, 155), 西城市民(10/10.8, 54), 安芸太田(7/9.5, 149), 府中北(3/7.7, 60), 神石高原(6/8.3, 95), 湯が丘(5/5, 308), 下蒲刈(3/3.8, 49), 豊平(1/2.8, 44)	常勤換算医師数計 75.3人
計		246.7人

(常勤医師数/常勤換算医師数, 総病床数)

(4) 新専門医制度に対応した広島大学各診療科のキャリアプランの見直し

○ H30年度からの新専門医制度の開始に伴い見直しをした「ふるさと卒卒業医師診療科別キャリアプラン」について、今後必要に応じて改定する。

(5) 医局の関連病院以外の医療機関への配置

○ これまで医局から医師を配置していない/最近配置していない県内の医療機関への配置についても配慮する必要がある。

3 中山間地域中小病院・診療所への配置を進める環境づくり

早期の地域医療体験機会の提供と、専門科医としての研修機会の確保に配慮する。

(1) 専攻医時期の中山間中堅病院勤務時に、中小病院・診療所での勤務機会を提供

○ 配置先中堅病院から中小病院・診療所への定期的(週1日～月1日など、以下同じ)な応援派遣機会の提供を検討する。(処遇については別途検討)

ー早期に応援派遣を経験することで将来の中小病院・診療所勤務に結びつける。

(2) 専門医時期での中山間中小病院勤務時に、専門科医としての研修機会を提供

○ 専門医時期での中山間中小病院での勤務について、他病院での専門分野の定期的な研修も可能とする。